

十月は先代勘三郎の十七回忌と勘三郎の三回忌で、今人気の息子の勘九郎と七之助が追善で出ています。いくつかある演目の中で昼の部の伊勢音頭恋寝刃（いせおんどこいのねたば）が光つていました。玉三郎や仁左衛門、橋之助なども出ています。





が美しく、特に黄色の玉菊は秋の陽射しの中、ひときわ鮮やかに目に映り見事です。山の斜面一面に小菊があり玉のよう並んで咲いています。

「どなたがお世話をしているのですか?育てている人のきれいな心も伝わってきます。」とお聞きすると、「大勢のボランティアさんに支えられています。私は八十才です。」とのことでした。高齢者が生き生きとボランティアをされている小菊の里でした。ありがとう。

念願だった改装後の歌舞伎座へ行きました。数年前までは歌舞伎同好会に入つていて、毎月見に行つていました。が、新しくなつてからは初めてです。何と妹が招待してくれたのです。それも一等席。私が行くことになつていたので、川崎に住んでいた姉が同行してくれました。足の調子のよくない私を気遣ってくれたのです。

十月は先代勘三郎の十七回忌と勘三郎の三回忌で、今人気の息子の勘九郎と七之助が旦喜で出ています。

歌舞伎をありがとう

は謡いの言葉がはつきりとガイドに映り、筋書きでは配役も丁寧に紹介され、とても便利でした。また、広い劇場の音響効果はすばらしく、とても聴き取りやすかったです。

前日の大型台風十九号は嘘のよう

に去り、台風一過の青空の中を無事

に歌舞伎見物が出来ました。もう行

けないと思つていた歌舞伎座です。

階段はエスカレーターになり、トイ

レも増えて、前よりずっと快適です。

満員のお客さままで大盛況。良い席を

確保してくれた妹と同行してくれた

姉に感謝の気持ちであります。

(目黒区/H・O)



●お兄さん、ありがとうございます

久しぶりの東京で乗り換える改札口がわからなくなり、何人かの人に尋ねましたが、それぞれ違ったことを言うので困ってしまいました。もともたもたして帰りの電車に間に合はないと大変。近くにいた若いお兄さんに事情を話すと、線が違うのでいつたん外に出て少し歩くと説明されましたが、わからない顔をしている私を見て、「改札口まで案内しますから。」と言つて下さり「説明してくださいさつたのにわからなくてごめんなさい。」「僕の母も同じですから。」と、気持ちよく改札口まで送つてくれました。本当に助かりましたお兄さん、ありがとうございました。

●孫にありがとう

2才の孫は男の子のせいか言葉が遅く、家族が話しかけをたくさんしても、なかなか話しません。娘が心配して「いつになつたら話せるようになるのかしら?」と言うので、「大丈夫よ、少し遅いだけで必ず話すようになるから」と慰めました。

数日後、嬉しそうに娘から電話がかかつてきました。「急に、ママ、パパって話すようになつたの。」電話の向こうで、「バーバ」と話す孫が「話せるようになったの、えらいね。」と話していると、そばでおじいちゃんが寂しそうです。私は思わず「今度は、ジージと言おうね。」こんな孫の成長が楽しみで毎日が幸せです。ありがとう。

(足立区/M・M)

娘は根っから明るい性格で、彼の母さんは「息子は娘さんと付き合うようになつてから明るくなり、よく話すようになりました。」と喜んでくださいました。

そして彼は、「彼女の看病を僕にさせてください。」と言つて下さり結婚。引越のため、初めて診察を受けた病院に入院。彼が外国に出張のため、久しぶりに娘について病院に行きました。十九年前と違い「お母さんはここに座つていて。」と足の悪い私を気遣い、一人で入院手続きをしました。

娘は病気を受け入れ、たくましく生き抜いています。ありがとうございます。

●たくましく育つた娘に  
ありがとう

十九年前、娘は膠原病と診断され、これからどうなるのか不安でいっぱいになりました。夜も眠れない日々が続きました。

大学受験は無理でしようと言われましたが、娘は頑張つて大学に入学。陽にあたつてはいけないので、帽子をかぶり、日傘をさして、手袋をはめ、体をかくし、最善をつくして通学しました。

卒業後、コノニコーナーブラフィック



孫にありがとう

●たくましく育つた娘に  
ありがとう

「台風が今夜、関東を直撃」と朝のニュースが聞こえてきました。私は横目でテレビを見ながら、いつものようにお勤めに出ました。夜になり、主人がお布団をひいてくれましたが、いつも位置が違うので、どうしたのかなあと想いながら休みました。

朝、寝ているうちに台風が通り過ぎました。お布団の位置が違ったのは、いつも窓側だと台風でガラスが割れたりしたら危ないので、場所を変えてくれていたのですね。主人の優しさに感謝。パパありがとうございました。

川崎市  
R · T

(調布市／M・S)

世田谷区  
H.  
A.

●主人の優しさに  
ありがとう

才の息子は、ぐずつ  
引っ張らないのに、お  
菓子だけをほしがります。私は、「引っ  
ぱらないう子供はいただけないの。お菓  
子がほしかつたら、引っ張りなさい。  
お友達はみんな引っ張っているでしょ。」  
と叱ると、やつとの思いで綱を引き始  
めました。

すると友達のパパが「そうだ、うま  
いぞ。その調子。」と大きな声でほめ  
てくれました。息子は二コ二コ笑顔で  
町内一周。

お祭りでほめて育てることを教わり  
ました、ありがとう。



●ほめていたとき  
ありがとう

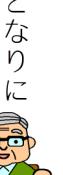
高校・専門学校と部屋に引きこもる  
ことが多くなった娘を、私は何とか連れ出そうと思いましたが思うようにない  
かず、最近は死にたいと言うようにな  
りました。私は心配で夜も眠れません。  
娘が自分の気持ちを話してくれるよ  
う、毎日、朝の挨拶、その日のお天気  
おやすみの声かけなどを続けました。  
ある日、娘は自分には願いがあるの  
で達成するまで死ねないと言いました。  
願いとは仲良しのお友達が幸せになる  
ことで、十人ほどの悩みの相談相手にな  
なつていたことなど、いろいろ話して  
くれました。

私の知らない所で、こんなにも成長  
していく娘のすごさに驚かれたり、長  
喜んだり。貴女はこの今までいいのよ、  
ありがとうございます。

●温かい会話にありがとうございます

電車の中でおとなりに座った老夫婦。どうも東京駅で新幹線に乗るようです。

「駅の階段、新幹線の中にも階段があるので気をつけるように、めんどうみます。」





「何もわからないんだから、めんどくさい下さい。」  
「切符は持つているか?」  
「お父さんの後ついでいくかう大丈夫。」  
ご主人は大きな荷物を両手に提げて  
奥さんは小さなバックを持って降りて  
行きました。温かい会話で隣りにいた  
私も温かい心にさせていただきました。

現に、東日本大震災後の、被災地の荒れ地の各所で歌われた歌があります。♪兎追いしかの山 小鮎釣りしかの川…

「故郷」です。この歌が、どれほど避難生活を送る人や支援活動をする人たちを元気づけ心を癒してくれたことでしょう。

ですから、より良い社会を取り戻す意味でも、童謡がもつと普及することを願っています。

「童謡」よ、ありがとう。

(出典:H・A)

♪ 静かな夜は木の実の落ちる夜は…この歌がふと、口をついで出たのは、先程、食した栗ごはんの余韻でしょうか。僕が子供だった終戦後には、ラジオからよく童謡が流れていました。当時はみな一様に、生活は豊かではあります、せんが、今ほど犯罪は多くはなく長閑でした。

友人と、近くの和食専門店へ出かけました。杯を交わしながら四方山話をしていると、店が薦める今が旬の栗ごはんが運ばれてきました。ほくほくと甘い食感に、秋の味覚を充分に堪能しました。友人とは店の前



【原稿をお待ちしています。】



【携帯Deショット】  
後見人の手続き書類をもらいに行つた帰りに日比谷公園を抜けてきた。  
秋のバラが咲く噴水広場を囲むように設置してあるベンチには、本を読んだり、スマホを見たり、歓談したり…寛ぐ人々の様子を、黄色いバラ越しに見ていてもなぜか落ち着く。

- 携帯電話の方はQRコードから →→→
  - パソコンの方は下記のURLから ↓  
<http://1039.seesaa.net/>
  - メールでのご投稿は…  
info@holonics.gr.jp



【編集・企画】株式会社ホロニックス総研・編集部